

# 生徒会新聞

熊本県訪問特別版

前期生徒会  
生徒会長  
生徒会副会長  
発行日  
平成29年1月6日

## 熊本県訪問

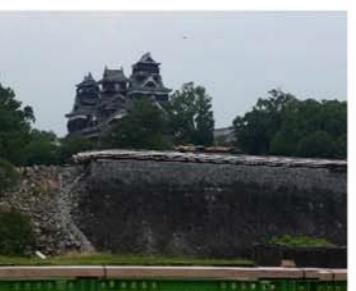
八月十六日・十七日に、浜松ベジタブル産学連携プロジェクトの一環として熊本を訪問した。実際に被災地を見たり、被災された方の話を聞いたりすることで、テレビや新聞では分からず、新聞を読んで熊本県のことや地震のことについて考えるきっかけとなれば嬉しい。



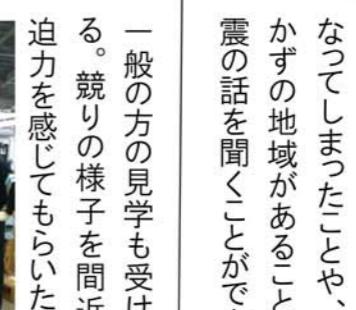
大津町役場での目録贈呈  
大津町副町長と井口会長

## 熊本城

石垣の多くが崩れてしまつていて、城自体は立ち入り禁止になっていた。熊本城は非常にきれいに石が積まれていたので、元通りになるには約二十年かかるそうだ。さらに、石を積む職人が減少・高齢化していて、より時間がかかる可能性もある。



石垣が崩れ落ちた熊本城



植木青果市場での競りの様子

## 益城町

熊本地震の震源地、益城町を訪問した。益城町は、震度七を観測し、甚大な被害が出た。地震発生から四か月が経過していながら、まだ避難所生活をしている方が多くいた。仮設住宅の建設は進んでいるものの、数が足りていない状況であるようだ。倒壊せずに残った家もあつたが、大半が立ち入り禁止となつて、家に戻ることはできない。また、それ以外の家も屋根がビニールシートで覆われていて、地震の被害を目で見て実感した。



熊本県の家は、台風対策のために屋根の瓦が重くなっている。地震の際には、その重い屋根、マイナスとなった。屋根が重いせいで崩れ落ち、被害がより大きくなつたと考えられている。

被災者の方々に、少しでも早く普通の生活が戻ることを願っている。

震源地の近くにある大津高校を訪問した。大津高校には四つの学科があり、今回の訪問では美術コースの二・三年生四名に話を聞くことができた。

大きな揺れを複数回感じて、とても怖い思いをしたこと、家族と離れ離れにならなかつたこと、利用して湧き水などの情報を共有したこと、山が崩れてしまつたところがあるため、今は二時間かけて登校していることなどだ。時折涙ぐみながら話をする姿はとても印象的であった。今回をきっかけに大津高校との繋がりができることを期待する。

## 訪問を終えて

震の被害を受けて使えなくなってしまったため、役場の存在は必要不可欠である。役場には多くの住民が相談に来ていた。大津町役場では、目録の贈呈を行つた。学芸高校の生徒の思いが少しでも届いていれば幸いだ。



大津高校の生徒と  
学芸高校執行部  
浜松ベジタブル池田さん

熊本県に実際に行くことで気付かされることが多くあった。このような貴重な体験をすることができ、浜松ベジタブルさんには感謝の気持ちでいっぱいだ。

また、復興には多額の費用が掛かるため、費用の面でも大きな問題がある。そのような問題を解決するために、十一月一日から「復興城主」というシステムが作られた。これは、震災前に作った「一口城主」を復活させたものである。一口一万元から、誰でも城主になることができる。

興味のある方は、ぜひ熊本県のホームページを見てほしい。

## 熊本県庁

熊本に着いて最初に訪問したのが熊本県庁であった。県庁企業立地課の方々が出迎えてくれた。地震の傷跡は県庁にださつた。地震の傷跡は県庁に大きなひび割れとして残つてゐたが、県庁の方々はとても明るく、前向きであった。

熊本県には地震が起きないかずの地域があることなどの地震の話を聞くことができた。と思つていたために対応が遅くなつてしまつたことや、まだ手つかずの地域があることなどの地震の話を聞くことができた。

一般的の方の見学も受け付けている。競りの様子を間近で見て、迫力を感じてもらいたい。



植木青果市場での競りの様子